

児童の主体的な学習姿勢を生み出す指導の在り方

～前時の形成的評価に基づいた、机間指導の在り方について～

南姫小学校 伊藤寿之

1 授業改善の視点

(声かけの方法) 前時の形成的評価に基づいた、机間指導における児童への声かけ

2 具体的な実践

(1) 前時まで児童個々の学習の実態を把握

- ・児童は、本文から読み取ったことをノートやプリントに記入する。
- ・教師は、授業後に児童のノートやプリントを見て、優れた記述に赤ペンで○をつけ、そのよさについてコメントする。その過程で、やや読み取りが苦手な児童を確認し、どんなつまづきをしているか分析する。そして、そのつまづきに対して、次時に、どのような個別指導をするか、その手立てを具体的に設定する。
- ・机列表に、その具体的指導内容を記入しておく。

(2) 読み取りが苦手な児童を中心に机間指導

- ・次時で、児童の一人読みの時間に、読み取りの苦手な児童を中心に机間指導を行う。
- ・「どの言葉に着目すればよいか」「どの文を関連づければよいか」など、本時の児童の読み取りの様子に応じて、前時末に作成した机列表を参考にしながら、具体的に個別指導を行う。



- ・しばらく時間をおいてから、先ほど指導した児童のところへ行き、よさを見付け、赤ペンで○を付けたり児童の記述に線を引いたりしながら、そのよさを認める声かけをする。

(3) 成果



- ・読み取った内容を班で交流する場面で、児童は、教師によって認められた自分の記述内容を、堂々と発表する姿が見られた。



- ・また、全体交流の場面でも、児童は積極的に挙手をしたり、大きな声で発表したりする姿が見られた。

3 実践を振り返って考えられること

児童個々のつまづきを分析し、そのつまづきに応じた指導を徹底すること、また単位時間内に、どんな小さな児童のよさ（成長）でも、教師が認めていく姿勢を大事にすることは、児童の学習への意欲を高めることにつながる。その積み上げによって、延いては、児童の学習に対する自己充実感をもつことにつながっていくと考えられる。